

## Global×Innovation 人材育成フォーラムにおける主な意見 (第5回)

### 【優秀な外国人留学生の呼び込み・定着促進】

#### <高等教育段階>

- ・ 予算が限られている中で、国の予算を使って外国人留学生を受け入れることについては、どのような人材を受け入れ、どのような活動をしてもらい、内なる国際化を実現するのかを明確にするなど、戦略的にやっていくことが必要。
- ・ 世界中でインド人が活躍している中で、日本の大学に来るインド人が少ないという現状は大きな課題。
- ・ 世界から優秀な研究者や学生をリクルーティングし、就職にもつなげることができおるようなパッケージ化した支援が必要。

#### <初等中等教育段階>

- ・ 高等学校レベルの留学生の受入れは、国際交流を目的とした短期の留学が多いと思うが、長期で留学生を受け入れる場合、研究等で日本で働く外国人の子どもが学べるような環境の整備が必要。
- ・ 日本に家族を連れてきたいと思えるような小中学校段階での教育プログラムを国が一定程度リードして開発することも留学促進のためには重要。

### 【留学モビリティ拡大・大学の国際化を支える環境・体制整備】

- ・ 海外大学との大学間交流においては、海外大学の科目の単位が互換されない場合、単なる語学留学になるので、そのことで留学に行くことを悩む学生もいるので、ダブル・ディグリーにより単位を修得できることは大事。
- ・ ダブル・ディグリーの意義としては、学際的な分野での連携を進めることと文化的マッチングがある。文化的マッチングを進めるためには、日本の文化を理解したいという気持ちのある優秀な留学生をリクルーティングすることが必要。
- ・ 学生ではなく研究者を呼び込むことも大切であり、そのためには、家族への配慮も重要。シンガポールでは配偶者の就職の支援もやっているため、バイネームで優秀な研究者を呼び込むためには、ビヨンド・シンガポールでやらないと追いつかない。
- ・ 異分野融合による新たな学びや、日本文化への適応意欲の高い優秀な学生のリクルーティングが重要と主張。
- ・ 文化になじめない留学生の増加は日本側の努力が無駄になるため、リクルーティング段階での適切な選抜が必要。

- 予算を確保することが難しい状況で、世界と競争できるグローバル人材やイノベーション人材を育成する必要があるため、海外の大学に派遣する場合には、相当程度選別的に送り出すことが必要。広くあまねくという考えはやめた方がよい。
- どのような留学生に来てもらうのかという哲学が必要。
- スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）の成果について、留学生数の増加だけではなく、10年前と比較してどのくらい国際化が進んだのか、SGU以外の大学との比較やKPI（目標指標）達成度も含めて明確にすべき。
- 教育プログラムに魅力を感じて外国人留学生が日本に来る可能性もあることを考えると、どういう教育プログラムを今後作っていくのかも重要。
- 大学が国際化するためには、戦略的な体制整備を進めていくことが必要。
- 環境整備について、大学間交流を継続的に実施する場合に、教職員の留学に関する高い専門知識の継続性がないと、続くことが難しくなるため、大学の体制整備も重要。
- ダブル・ディグリーは相手校との信頼関係や協調関係が不可欠であり、持続可能な形で進めるためには事務・教員コストをどのように確保していくのかが1番の課題。
- 海外の大学との連携に関しては、アカデミックな連携だけでなくカルチャー交流や学生の意見発信力向上（日本のことをどれだけ発信できるかなど）、ディスカッション力の育成が大学の国際化に不可欠。

### 【その他】

- テクノロジーを利用し、日本の大学に行くと言葉の壁もそれほど感じることなくインタラクティブに学ぶことができるような環境を作り、世界の先に行くような取り組みも重要。
- 日本の大学は知が分散しており、どの県にも同じような分野を持っている大学が存在する。この分野はこの地域、あるいは大学が強いといった形にして、世界のトップ大学に引けをとらないような知の集積が必要。